報 告

北海道マンモグラフィ読影医師講習会

去る平成18年12月9日（土）、10日（日）に北海道マンモグラフィ読影医師講習会を旭川市の大雪クリスタルホール国際会議場において開催した。

この講習会は前年度から北海道に働きかけ、北海道医師会として初めてマンモグラフィ検診精度管理中央委員会（以下「精中委」という）との共催で、委託事業として実施することとなったものである。

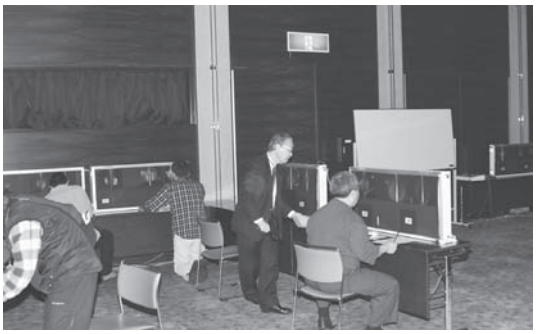
開催を案内したところ、募集人員49名（全国的に精中委が実施する講習会の基本的人数で、読影のグループ講習を1グループ最大7名で、7グループで構成されているため）に対し、80名を超える受講の申込があり、やむなく基本的に各医療機関1名とし、現在市町村健診に携わっていること、読影実績の多いこと等を基に受講者の選定をせざるを得なくなった。

受講できなかった諸先生には誠に申し訳なく、北海道には次年度においても本講習会を開催できるよう、強く要望している。

12月9日（土）の初日の講習（講師については別表参照）は、気温マイナス10℃の中、午前9時に開講。受講者の中には開講の1時間前より会場入りされた先生もおり、この講習会への強い関心が伺える中、6題の講義とグループ講習4カテゴリーを行い、つつがなく終了した。

その後、別会場にて講師を囲む懇談会を開催し、10日の最終日に向け、鋭気を養っていただいた。

12月10日（日）は午前中にグループ講習の残り3カテゴリーを行った後、昼食をはさみ、精中委が行う読影試験が実施された。



会場風景

この試験には受講者49名中1名が都合により辞退されたために、48名が受験した。緊迫した空気の中、時間だけが刻々と進み、あっという間に試験時間の2時間が過ぎていった中、5名がＡランク、27名がＢランクに合格した。これは他会場に比べ高い合格率で、講師の諸先生方も大変喜んでおられた。

合格した32名中希望者には、精中委より「試験評価認定証」が交付されることとなっているほか、当日受講者全員に、北海道医師会 飯塚会長と北海道 高橋知事の連名で、また後日、北海道医師会と精中委連名の受講証が交付されることとなっている。

今回北海道医師会で催した記念すべき第1回目の講習会であるが、特に大きなトラブルもなく、無事終了することができた。この場を借りて講習会の開催にご尽力いただいた講師の諸先生に感謝申し上げるとともに、受講者の皆様には交通事情等の講習会場の利用勝手の悪い中での受講であったことをお詫び申し上げ、報告を終わりたい。

受講者の方々

－地域保健部－

全体講義、グループ講習講師

全体講義

講義１　乳がん検診へのマンモグラフィ導入と精度管理
鈴木　昭彦（東北大学病院乳腺外科）

講義２　マンモグラフィの基礎・撮影技術・被曝リスク
黒蕨　邦夫（北海道対がん協会検診センター放射線科）

講義３　乳がんの病理と画像
山城　勝重（北海道がんセンター臨床研究部）

講義４　マンモグラム所見用語とカテゴリー分類１（腫瘤）
安達　武彦（北海道対がん協会検診センター外科）

講義５　マンモグラム所見用語とカテゴリー分類２（石灰化）
後藤　　剛（勤医協中央病院外科）

講義６　マンモグラム所見用語とカテゴリー分類３（その他の所見）
三神　俊彦（東札幌病院外科）

グループ講習

腫瘤１	講　師	安達　武彦（北海道対がん協会検診センター外科）
	準講師	前田　富與（札幌外科記念病院外科）
腫瘤２	講　師	鈴木やすよ（札幌医科大学第一外科）
	講　師	池上　　淳（道北勤医協一条通病院外科）
石灰化１	講　師	後藤　　剛（勤医協中央病院外科）
	準講師	早川　善郎（函館五稜郭病院外科）
石灰化２	講　師	増岡　秀次（札幌ことに乳腺クリニック）
	準講師	高橋　將人（北海道大学医学部第一外科）
構築の乱れ１	講　師	三神　俊彦（東札幌病院外科）
	準講師	九富　五郎（札幌医科大学第一外科）
構築の乱れ２	講　師	玉川　光春（札幌医科大学放射線科）
	準講師	上徳ひろみ（北海道がんセンター乳腺外科）
画像評価	講　師	鈴木　昭彦（東北大学病院乳腺外科）
	講　師	田村　　元（北海道がんセンター乳腺外科）
	講　師	黒蕨　邦夫（北海道対がん協会検診センター放射線科）

講師陣